

70'sなサイケデリックが爆発！60's末なエロクワも暴走！世紀を越えた痛快アナログ・アクション・ミュージカル登場！

a Ryuichi Honda film Hiroshi Yamamoto in  
 TOKYO SHAMELESS PARADISE GOOD-BYE BLUES  
 16mm/Color/Standard/Monoral/80min/2001/Japan



脚本・監督 本田隆一  
 製作 横山浩基  
 撮影・照明 橋本清明  
 録音 古谷正志

音楽 サミー萩原  
 (サ・ロイヤル・フィンガーズ)  
 制作 ビーコックフィルム  
 提供 FINEST STUDIOS  
 配給 ビタース・エンド+スリーピン

2001年ゆうばり国際ファンタスティック映画祭 オフシアター部門 グランプリ受賞作品  
 2001年トリノ国際映画祭出品 2001年リール・アジア国際映画祭出品  
 2001年第19回トリノ国際映画祭出品 2001年作品/カラー/16ミリ/スタンダード/モノラル/80分

東京ハレンチ天国  
 監督・脚本 本田隆一

# おんなのブルース

特別出演  
 瀬川洋(EXザ・ダイ・タイム)  
 映☆画次郎(驚異の新人)

山田美香	安田	山本	出本
香司	浩	美	美
隆	史	浩	浩
史	誠	史	史
史	史	史	史



本田君のモミゾは長い。そのモミゾで彼はこんなにハレンチな歌謡映画をつくってしまった！長いまつげの女の子、ミニチュールックにGSサウンド、見ていても楽しいけど、切なくもなる殺し屋のブルース。

# introducing

◆主演の山本浩司は、90年代後半から数々の自主製作映画に主演、特に山下敦弘監督の『どんてん生活』のロング・リーゼント姿が目されるが、監督作品『BOOMERANG2000』や『地球の最後の最初の男』等が各地で上映され監督としても高い評価を得つつあるが、山本演じる殺し屋・黒川が憧れる『ザ・ドンキーズ』のヴォーカルで『モーツ・ガール』のEMミ役の安田美香は、1974年神奈川県生まれ。95年多摩川競艇キャンペーンガールでデビュー。98年度ミス日本大学芸術学部でもあり、『SMAP XSMAP』(CX)、『デジマートTV』(スカイパーフェクTV)等レポーター、会社として主にTV、CFで現在も活躍中。

◆監督の本田隆一は1974年神奈川県生まれ。大阪芸術大学・映像学科入学。『鬼畜大宴会』の熊切和嘉と同期。卒業後東京に戻り、98年日本大学大学院芸術学研究所に進む。8mm作品『地獄門』が2000年水戸短編映像祭に入選注目された後、日本大学大学院卒業作品として本作を監督し出張国際ファンタスティック映画祭でオプ・シアター部門のグランプリを受賞。撮影は『鬼畜大宴会』と『空の穴』の熊切和嘉とのコンビで注目され、同じ大学の同期生の橋本清明が担当。そして同じ大学時代から本田作品には欠かせない横山浩基が製作自ら出演している。そして『ブテンノツキ』の監督でもある元木隆史がGSバンド「ザ・ドンキーズ」のリーダーを演じている。

# story

憧れの職業である「殺し屋」になった黒川(山本浩司)は、その初仕事を成功させ、事務所に戻るが、ピンク映画の監督でもある暗黒街のボス(映画次郎)は黒川が死体を始末しなかった事に怒り、死体をバラバラにして捨てるように命じる。

一方、売れないGSバンド「ドンキーズ」のメンバーは、一獲千金を目指して、暗黒街の組織が取り引きするカバンを強奪する事を計る。交わらない筈の二つの物語が交錯してしまい、そのうえ黒川が「ザ・ドンキーズ」のヴォーカル・エミにハートを奪われたため暗黒街 対 GSバンドというとんでもない抗争が始まってしまふ…。

## あの人が出演している

1967年、ファーストシングル『トンネル天国』で鮮烈なデビューを飾った、言わずと知れたGSバンド「ザ・ダイナマイツ」のヴォーカルにしてリーダーの瀬川洋。日本ロック史の中で重要な役割を果たす山口富士夫も、このバンド出身である。瀬川氏は、現在も「トラベリン・オーシャン・ブルーバース」というロックバンドを率いて活躍中である。今回の映画のサントラにも曲を提供している。そして驚異の新人「映画次郎」という芸名で怪演する有名個性派大物俳優。よくよく見ると実はあの『鉄男』の…という、びっくりカメオ出演。



# 映画を観た後、誰もが「トウキョウ、ア・ゴー・ゴー〜♪」と歌い出す。

映画で流れる60-70年代GSの演奏は1971年生まれのスミイ・萩原率いる「ザ・ロイヤル・フィンガーズ」が担当。この寺内タケシを彷彿とさせるエレキ・インスト・バンド「ザ・ロイヤル・フィンガーズ」はドイツでも人気で、日本、ドイツの両方からすでにCD、レコードを発売している。

## 《劇中のテーマ曲について》本田隆一

- 1.「東京・ア・ゴー・ゴー」**  
『東京ハレンチ天国』さよならのブルースのテーマ曲とも言えるのが、主演の山本浩司が歌う『東京・ア・ゴー・ゴー』である。この曲は1966年1月、田辺昭知とザ・スバイダースの演奏をバックに高木たかしが歌ってレコード発売された『幻の名盤』である。この原スバイダースは、後にオルガンを使用する太野克夫が、まだオールドギターで演奏していて、それがこの曲の特徴ともなっている。原はこの楽器の独特な音色が大好きである。
- 2.「逢えば好き好き」**  
映画のオープニングとして演奏されているのは安田美香がキューートな声で歌う『逢えば好き好き』である。原曲はハーフのガールズ・グループ・マーガレットの二枚目のシングルA面曲で、発売は68年5月である。バックの演奏は、「エレキの神様」寺内タケシ率いるパニースで、カットラにかっこいい、「寺内節」を炸裂させてくれたお蔭で、日本のガールズ・グループの最高傑作と言っても過言ではない、素晴らしい曲になっている。この曲を映画のためにコーディネートする際、一番困ったのが、このエレキ演奏である。「寺内節」を弾けるギタリストがどこにいるのか?その問題を事象に解決してくれたのが、東京のクラブシーンで活躍するザ・ロイヤル・フィンガーズのギタリストであり、同時に寺内の大ファンでもある、サミー萩原だったわけである。
- 3.「恋はハートで」**  
オープニングとは対照的なセクシーヴォイスで安田美香が歌うのが、映画の中盤で演奏される『恋はハートで』である。安田の凄いとこは、こつた、まったく系統の違う曲をいとも簡単に気持ち良く歌いこな

してしまつて、その才能にはただただ驚かされるばかりである。♪「愛しあって〜♪」をちゃんと東京アキは曲に♪「トウキョウア・ゴー・ゴー」と発音しているところがスリルしい。

♪原曲はその東京アキが67年10月に発売した1人GSで、演奏はカイトGSバンド、ザ・レインジヤーズである。曲の特徴というよりはレインジヤーズの特徴として挙げられるのが、シャープファブの天才ギタリスト、三根根宏直系の「逆さのギター」だろう。驚くべき事にサミー萩原はその音色までも完全に再現。安田美香の歌声との絶妙なコラボレーションで、石井聰互監督もお気に入りの曲に仕上がっている。

**<その他>**  
劇中で使用している他の曲について簡単に説明しておく。主人公黒川がロビン・エミを初めて見て一目惚れするシーンで印象的に使われている曲は、ザ・スバイダースの『僕のハートはダンダン』。ボーカルはかまやつひろしである。その前のシーンで、黒川が運転する車のカーステレオから流れる曲は、ザ・ブルー・インパルス『夜明けの叫び』。名曲中の名曲だと思う。元ザ・ダイナマイツのリーダー、瀬川洋が演じるジャズ喫茶のマスターと黒川が会話するシーンのバックに流れているのは、もちろんザ・ダイナマイツの『トンネル天国』。言わずと知れたカイトGS代表曲。映画の前半、ジャズ喫茶を出て行くマスターが何故なくこの『トンネル天国』を口ずさんでいるが、これが実はこのシーンだと思ふ。黒川がエミと初めて二人きりで会話して、ほせあがっているシーンのバックで、ラジオから流れてきている曲は、ザ・レインジヤーズの『すてきなエール』。何気なく名曲だと思う。ドンキーズの神道と根基が歌の改口で、カバンを持つ黒い服を見張っている時に流れるインストは、沢村和子とピーター・ハリスの『KIDS ARE ARLIGHT』で、映画『野良猫ロック・マンシヤニマル』の中で演奏している曲である。沢村和子のオルガンプレイが異常にカッコいい。映画本編で流れるその他のすべてのインストは、サミー萩原氏によるオリジナル曲である。

東京ハレンチ天国ホームページ <http://www.peacockfilm.com>

東京ハレンチ天国・さよならのブルース  
2001年作品/カラー/16mm/スタンダード/モノラル/80分  
2001年ゆめ100国際ファンタスティック映画祭 オープン・シアター部門 グランプリ受賞作品 2001年第19回トリノ国際映画祭出品 2001年リール・アジア国際映画祭出品  
監督・脚本/本田隆一 製作/横山浩基 撮影/照明/橋本清明 『鬼畜大宴会』『空の穴』 録音/古谷正志 音楽/サミー萩原(ザ・ロイヤル・フィンガーズ)  
制作/ピーコックフィルム 提供/PLANET studio+1 配給/タワーズ・エンタテインメント  
主演/山本浩司、安田美香、元木隆史、乙黒史誠、横山浩基 特別出演/瀬川洋(ex. ザ・ダイナマイツ)、映画次郎

TOKYO SHAMELESS PARADISE GOOD-BYE BLUES  
16mm/Color/Standard/Monoral/80min/2001/Japan Director/Screenplay Ryuichi Honda  
Production Manager Hiroki Yokoyama Director Of Photography Kiyoko Hashimoto Sound Masashi Furuya Music Sammy Ogiwara Production Peacock Film  
PLANET Studio+1 presents Distribution Bitters End + Sleep'n  
Cast Hiroshi Yamamoto Mika Yasuda Takashi Motoki Fumiyasu Otoguro Hiroki Yokoyama Gajiro Ei Hiroshi Segawa  
Staff Director/Screenplay/Editor/Ryuichi Honda Director of photography/Lighting/Kiyoko Hashimoto Production Manager/Hiroki Yokoyama Assistant Directors/Shinobu Kurabayashi  
Art Design/Miho Maeda Make Up/Shinobu Kurabayashi, Mayu Yokoyama Special Make Up/Kazuhiko Mashita Sound/Masashi Furuya Assistant Sound/Yukiko Yamada Music/Sammy Ogiwara(The Royal Fingers)

「これは、スゴイ！半端なGSマンガとかではない！構図からスタイリングまで、スキがないうえに笑わせる！恐れていた世代の登場。この調子で21世紀をサエキけんぞう(モーター)シヤン・作詞家

若いう子(歌手)

英雄なき現代に喝をいれるフリーペーパー  
**絡繰団場**  
 E-mail Karakuri-do@pos.to URL <http://Karakuri-do.pos.to>  
 毎月第二土曜日発行  
 京阪神のミニシアター、ライブハウス、雑貨店、を中心に好評配布中

東京ハレンチ天国  
**サントラは全8曲入り**  
 『東京・ア・ゴー・ゴー』『逢えば好き好き』『恋はハートで』他5曲  
 公開劇場にて限定300枚発売中！  
 ¥1200 (税込み)

ラストコイブ  
2002  
近日開催  
<http://go.to/planet1>

# 全 国 縦 断 公 開 ! ! !

**TOKYO**  
 2001年12月8(土)~21(金)  
 連日12:00/13:50/15:40/17:30/19:20  
 2002年1月19(土)~25(金)連日  
 12:00/13:50/15:40/17:30/19:20  
 中野武蔵野ホール 03-3389-3301 <http://www.musashino-k.co.jp>

JR中野駅北口サンモール街  
 コーゾコーナー右入る  
**中野武蔵野ホール**

**OSAKA**  
 2002年2月9(土)~22(金)  
 連日レイトショーPM9:10~  
 ★日曜休映  
 テアトル梅田(梅田LOFT B1) 06-6359-1080

**TEATRO UMEJIMA**  
 梅田ロフトB1  
 06-6359-1080